



園芸の文化史



対象者：昔の園芸について知りたい人、
園芸の楽しみ方について知りたい人

作成者：MORI

I. イントロダクション

植物は食べ物や薬、建材などに使われるだけでなく、鑑賞のためにも育てられてきました。それが、園芸です。日本でも江戸時代から広く楽しまれてきた園芸の歴史や文化について知ることのできる本を紹介します。

関連分野：園芸学 植物学 文化人類学

II. 江戸時代の園芸の流行

■日野原 健司, 平野 恵, 2013, 『浮世絵でめぐる江戸の花——見て楽しむ園芸文化』誠文堂新光社.

江戸時代にどんな植物が好まれていたかが浮世絵と解説で紹介されています。露店でどちらの鉢を買おうか悩んでいる女性の様子は、今も変わりません。

■たばこと塩の博物館, 2019, 『江戸の園芸熱』※企画展図録.

上の本を読んで、さらに詳しく知りたくなった人におすすめです。江戸時代の園芸熱は庭園から鉢植えへ移行してきました。武士や庶民の間で時期と共に変わる植物の流行と、その理由についても知ることができます。

III. 江戸時代の園芸のルーツ

■白幡洋三郎, 2004, 『プラントハンター——ヨーロッパの植物熱と日本』講談社選書メチエ.

19世紀のプラントハンターと日本における植物の伝播について詳細に書かれた本です。プラントハンターが採取した植物が江戸の園芸植物になっていきます。

■キャシィ・ウイリス, キャロリン・フライ (著), 川口 健夫 (訳), 2015, 『キューガーデンの植物誌』原書房.

プラントハンターが世界中で採集してきた植物は英国王立植物園に集められました。ここでも園芸家の栽培技術が欠かせませんでした。研究者以外からの知識があつてこそ、植物に関する理解が深まったことがわかります。

■岩槻 邦男, 2004, 『日本の植物園』東京大学出版会.

一方、日本の植物園ではどのように海外から持ち込まれる植物を管理してきたのか、前の本と併せて読むと理解が深まります。

IV. 園芸用植物がもたらした文化

■斎藤 正二, 2002, 『植物と日本文化』八房書房.

日本で古くから育てられてきた植物に対する楽しみ方の変化が書かれています。江戸以前の園芸文化に興味がある方にもおすすめです。

■平野 恵, 2010, 『温室』法政大学出版局.

海外の植物を日本で育てるためには、温度と湿度が調節できる温室が必要でした。板ガラスが高級品だった時代、最初は紙で作られていた温室の形が変わっていく様子が書かれています。日本の温室「^{むろ}室」はどういうものだったのでしょうか？

■マイク ダッシュ (著), 明石 三世 (訳), 2000, 『チューリップ・バブル——人間を狂わせた花の物語』文春文庫.

園芸が一般にも浸透すると、品種改良を経てついには資産としての価値を付けられるほどになりました。人類史最初の投機バブル、オランダにおける欲望の園芸史を覗いてみませんか？